

# ぶらりわが街宮沢界限

## (36) 花・樹木をながめてぶらり散歩(春) - 11 -

春の代表である桜のお花見を紹介「(27) 樹木をながめてぶらり散歩(春) | 11 桜(楼)」に記載しましたが、他の花、樹木をながめながら散歩を楽しんでください。

○ **コブシ(辛夷)**—早春に他の樹木に先駆けて白い花を梢いっぱい咲かせる。諏訪神社(宮沢町2-35-23)境内等。コブシはモクレン科で庭木や街路樹などに用途。果実は集合果でにぎりこぶし状のデコボコがあり、果実の形状が名前の由来。演歌「北国の春」で知られ、花言葉は「負けん気の強さ」。枝先に純白のよい香りのする大き目の六弁花が咲きます。

\*コブシとモクレンの違い—コブシは日本産。モクレンは中国産。コブシの花底は紅色、少し小柄な花があちこち向いている。モクレンは花底が白い大柄な花が上を向いている。コブシは花の付け根に葉が一枚ついている。モクレンは花に葉がついていない。この点がきめてのようです。

○ **宮沢界限は**、丘崖下「ハケ」から幾つかの湧水が有り、流れる清流など水に恵まれた環境を春の花、樹木をながめながら感じて見ませんか。



### ① スイセン(水仙)



諏訪神社とワサビ田の清流が中沢堀への合流地点=中神町2-2-9昭島シルバー人材センターと恵日庵の約30m先。「日本ズイセン」12~2月開花。スイセンの花言葉「うぬぼれ」「自己愛」—水鏡に映った自分の姿に恋してスイセンになってしまった美少年ナルキッソスのギリシャ神話伝説に由来。日本ズイセンの原産地は地中海沿岸で中国を経由し南東地方で自生したものが、室町以前に黒潮に乗って流れ着き、自生したといわれています。

\* 主な群生地—福井県越前海岸(県花)、伊豆下田の爪木崎

### ② ワサビ(山葵)



鈴木理夫氏宅邸内裏手のワサビ田(宮沢町2-32-12)。寿司や日本料理に欠かせないワサビは、湧水の中で育つ日本原産のアブラナ科の植物である。水温12~13℃の澄んだ水を好み、強い日差しを嫌うデリケートな性質を持つ植物だ。ため、この地域で条件にあった鈴木氏宅のワサビ田は大変珍しい。ツーンと鼻に抜けて涙が出てくるほどの辛さの秘密は、すり下ろすとワサビの辛味成分の酵素と空気中の酸素とが作用して、辛味と香りが一段と強くなるた

めであるという。花は3月末~4月に清冽な湧水の中で白く小さな花を一斉に咲きそろえます。花も食用に利用されます。

\* 主な産地—匹見ワサビ(島根県益田市)、安曇野ワサビ(長野県安曇野市)、有東木ワサビ(静岡市葵区)が日本三大ワサビです。

\* 見学は鈴木氏宅に一声掛けをお願いします。

### ③ きしょうぶ(黄菖蒲)

諏訪神社の湧水からの清流で黒堀の先、宮沢町2-33。アヤメ科アヤメ属の多年草で耐寒性があり、強健な根茎を持ち、高さ0.5~1m、5~6月に名前の通り黄色い花を咲かせる。ヨーロッパ原産で明治時代に渡来し、全国各地の湿地に野生化して繁殖した菖蒲です。

